# Zoological Science はなぜ SPARC/JAPANへ参画したか

社団法人日本動物学会・電子ジャーナル担当理事

東京大学大学院理学系研究科·教授 岡 良隆

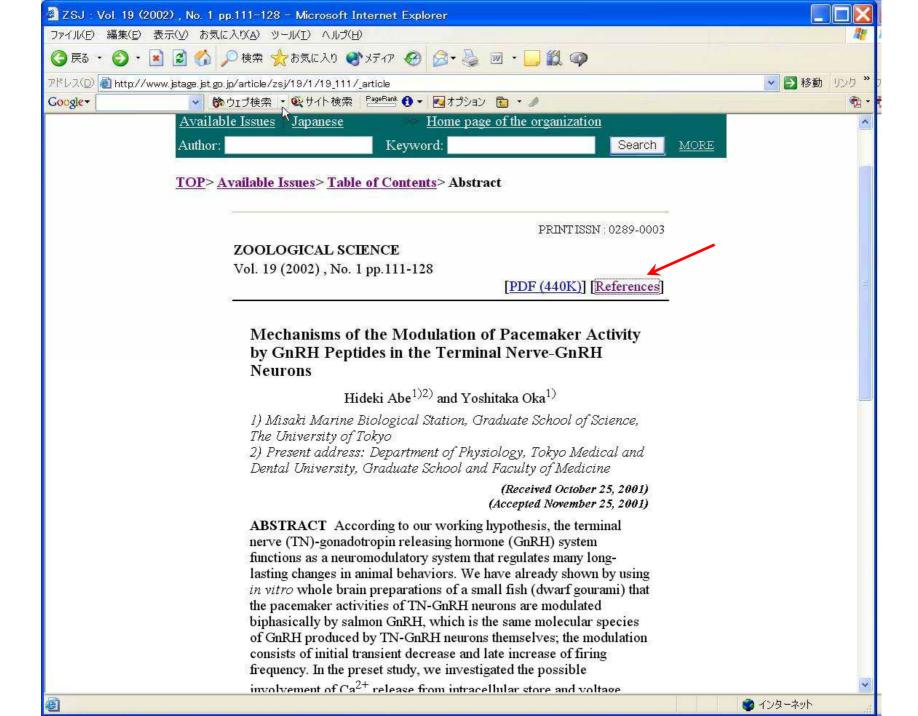
# Zoological Science

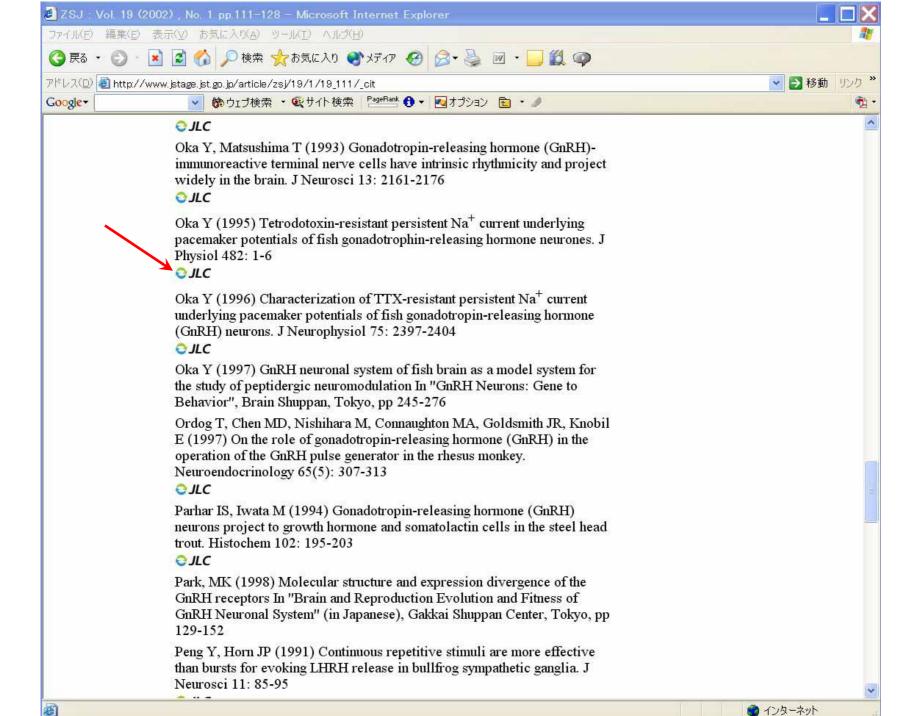
- 生物多様性を反映した多様な生命機構を 追求し,世界に情報発信する動物学国際総 合誌(Medline/Pubmed掲載)
- (社)日本動物学会:設立以来約120年以上
- 設立当初から、英和混合誌「動物学雑誌」と 英文誌「日本動物学彙報」を定期刊行
- Zoological Scienceはこの両誌を1984年に 統合して創刊された、英文国際学術誌

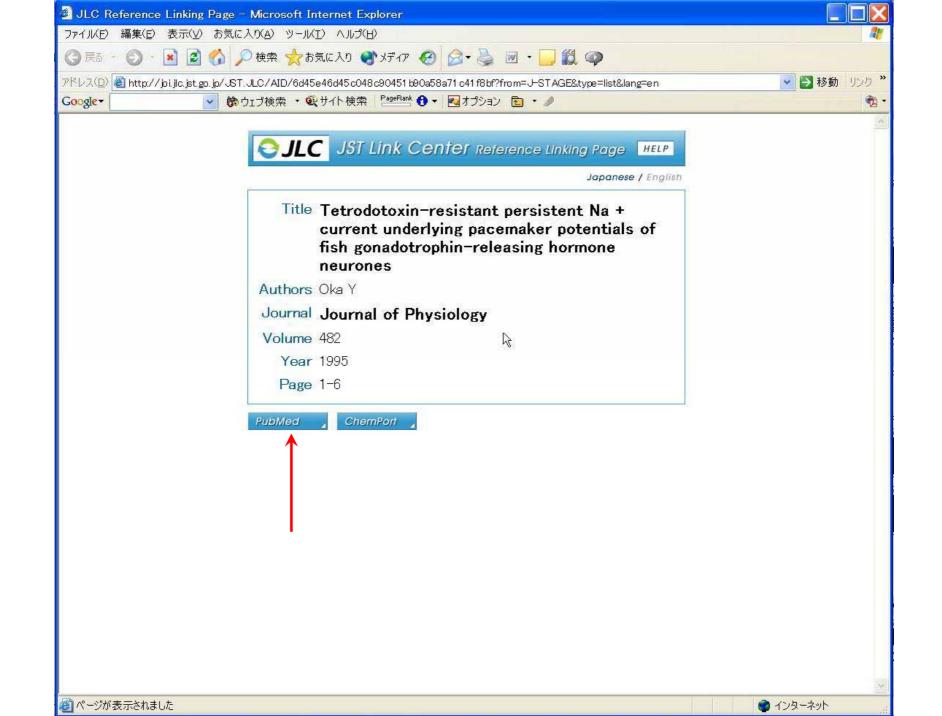


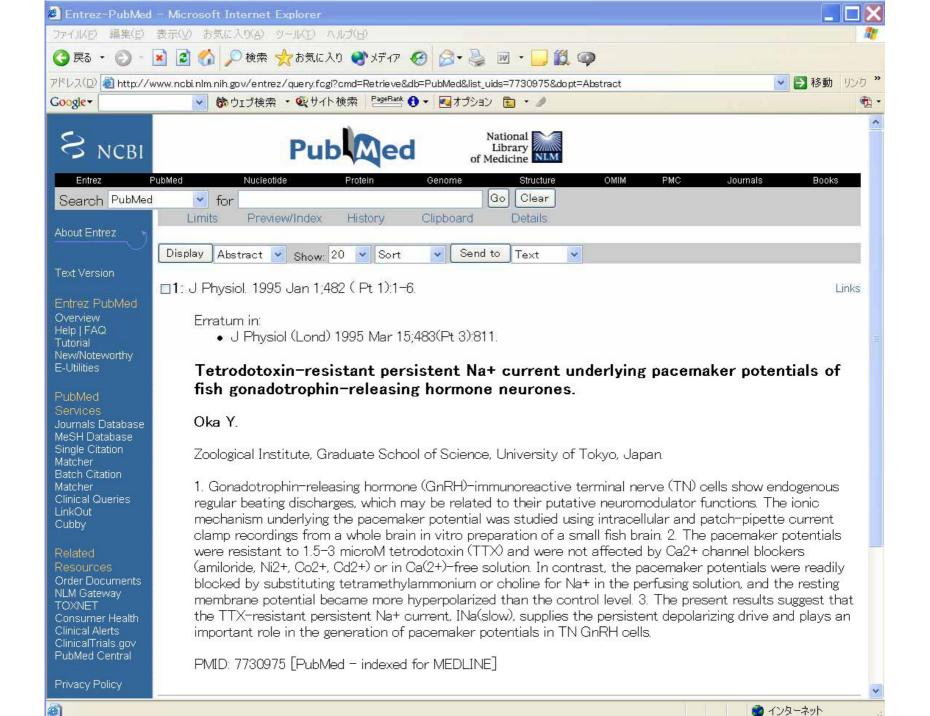
#### Zoological Science電子化のあゆみ

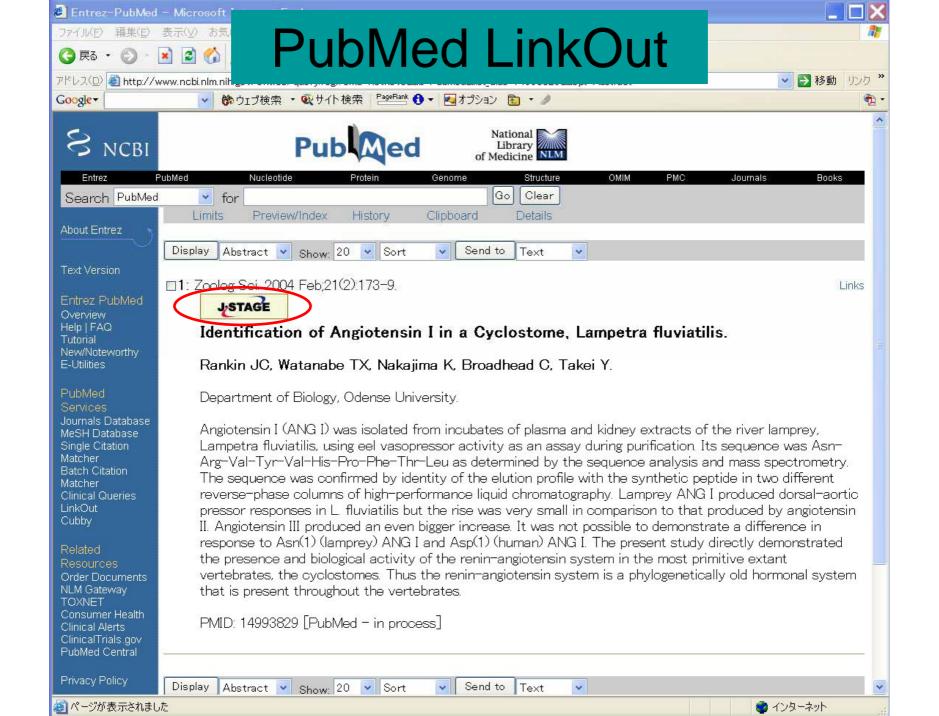
- 1999年JSTAGE運用開始時からJSTAGE上での Zoological Scienceの電子出版を目指すことを決定
- 1999年以降の全論文電子化を実施すると同時に, 1998年以前の論文についても今後電子化
- 2002年には生命科学の文献データベースで国際的に最も権威のあるMedlineに採用され、世界最大のインターネット文献検索PubMed上において2002年から全論文が検索可能になった。
- 現在では、冊子体発行と同時に、全論文のホームページ公開と電子メールアラート(新着雑誌案内)サービスを行っている。















### PubMed LinkOutからの アクセス件数(2003年5月)

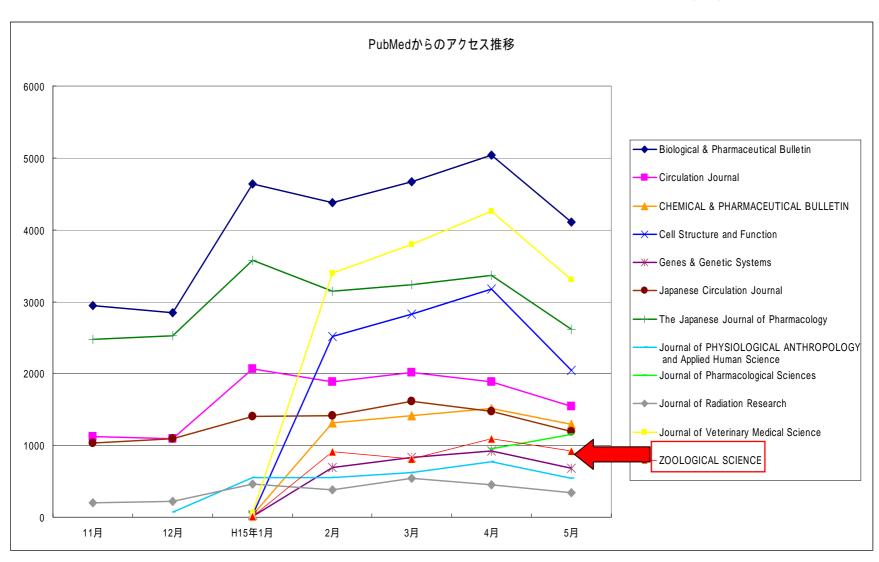
No.	ジャーナル名	5月
1	Biological & Pharmaceutical Bulletin	4,108
2	Journal of Veterinary Medical Science	3,308
3	The Japanese Journal of Pharmacology (*2)	2,619
4	Cell Structure and Function	2,043
5	Circulation Journal (*1)	1,543
6	CHEMICAL & PHARMACEUTICAL BULLETIN	1,290
7	Japanese Circulation Journal (*1)	1,187
8	Journal of Pharmacological Sciences (*2)	1,150
9	ZOOLOGICAL SCIENCE	920
10	Genes & Genetic Systems	681
11	Journal of PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY and Applied Human Science	538
12	Journal of Radiation Research	341
総アクセス数		19,728

\*1: No.5(新)とNo.7(旧)は同一ジャーナルであるが、誌名変更のため個別集計。

\*2: No.3(旧)とNo.8(新)は同一ジャーナルであるが、誌名変更のため個別集計。



#### 雑誌別PubMed LinkOut件数



#### 電子メールアラート(新着雑誌案内)

発信者: system@istage.ist.go.jp

宛先: alert-zsi-en@ml01.istage.ist.go.ip

題名: [alert-zsj-en] Infomation of new articles from J-STAGE [ZOOLOGICAL SCIENCE]

日時: 2004年3月9日 9:05:03

Thank you for using J-STAGE.

We would like to announce you that new articles of ZOOLOGICAL SCIENCE that were published from 2004/03/03 to 2004/03/09 are now available for the following URL on J-STAGE. Thank you for always using J-STAGE.

http://www.jstage.jst.go.jp/browse/zsj/

New-arrival articles volume/issue list

Vol.15 No.1

Title : Energy Metabolism of Sea Urchin Spermatozoa: An Approach Based on

Echinoid Phylogeny

Author: Masatoshi Mita and Masaru Nakamura

Release: 20040305

JOI: <a href="http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/zsj/15.1?lang=en">http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/zsj/15.1?lang=en</a>

Title : Ionic Dependence of the Axotomy-Induced Long-Lasting Firing in an

Identified Crayfish Motoneuron

Author: Atsuko Muramoto

Release: 20040305

JOI : http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/zsj/15.11?lang=en

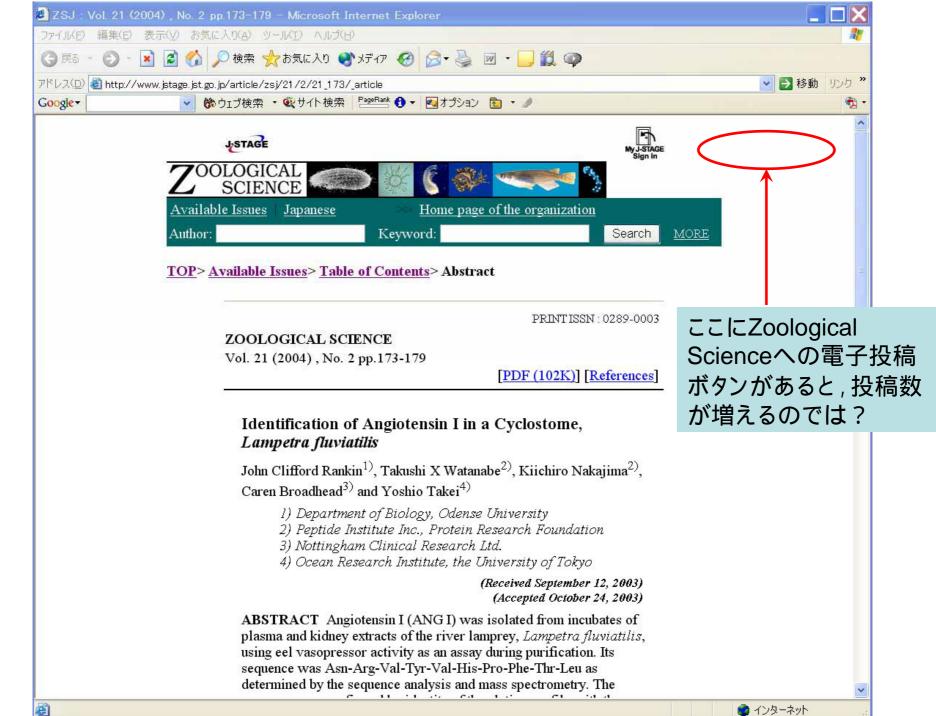
Title: Cardioacceleratory Neurons of the Isopod Crustacean, <i>Ligia exotica</

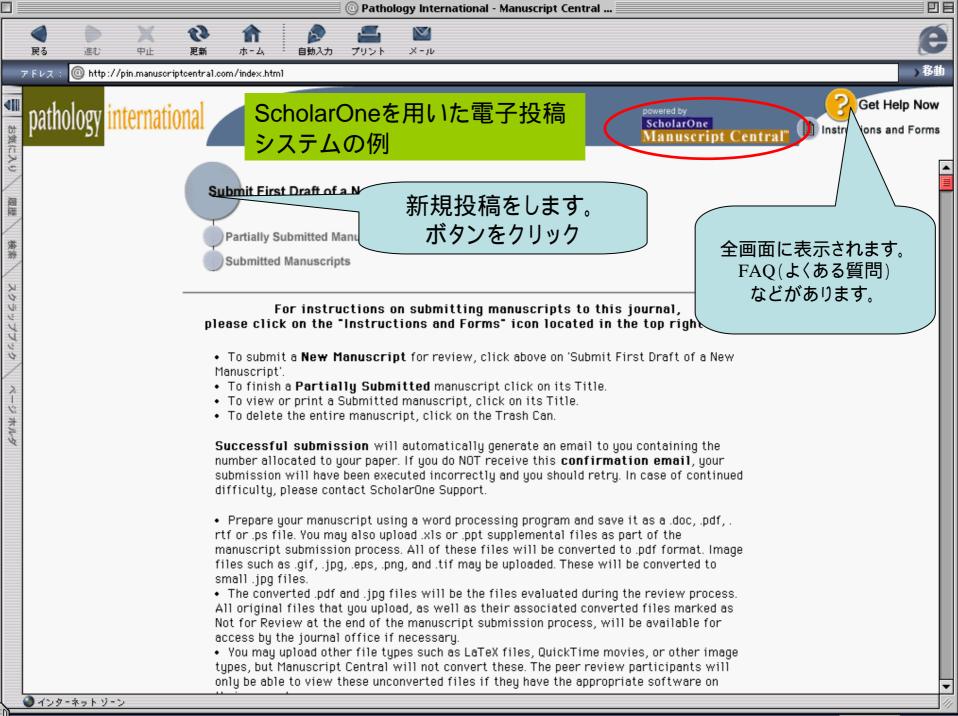
i>: Visualization of Peripheral Projection onto the Heart Muscle

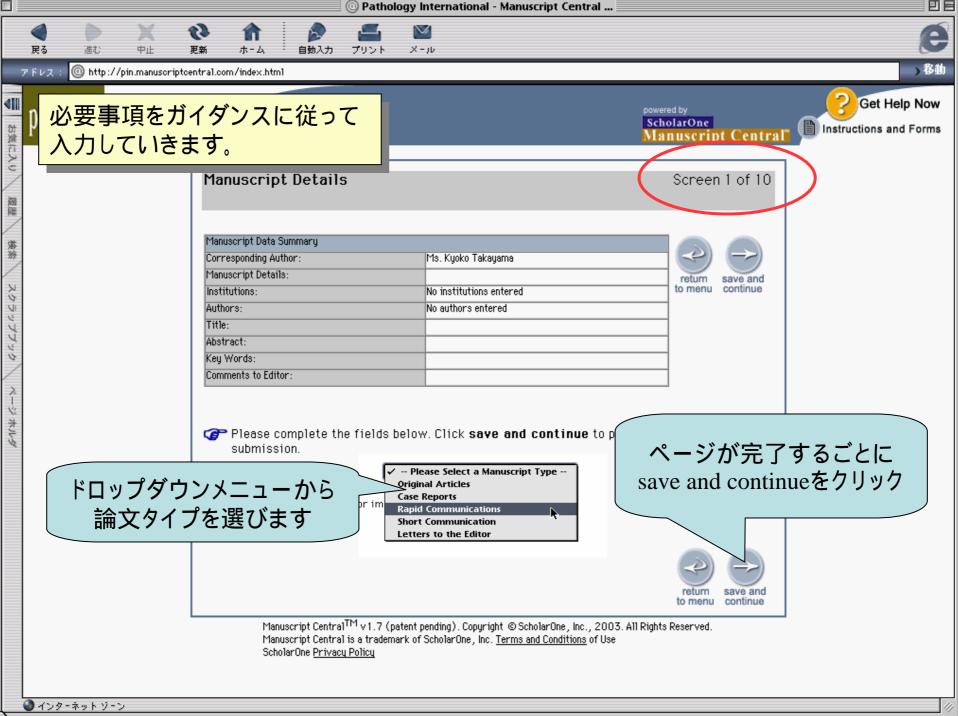
~

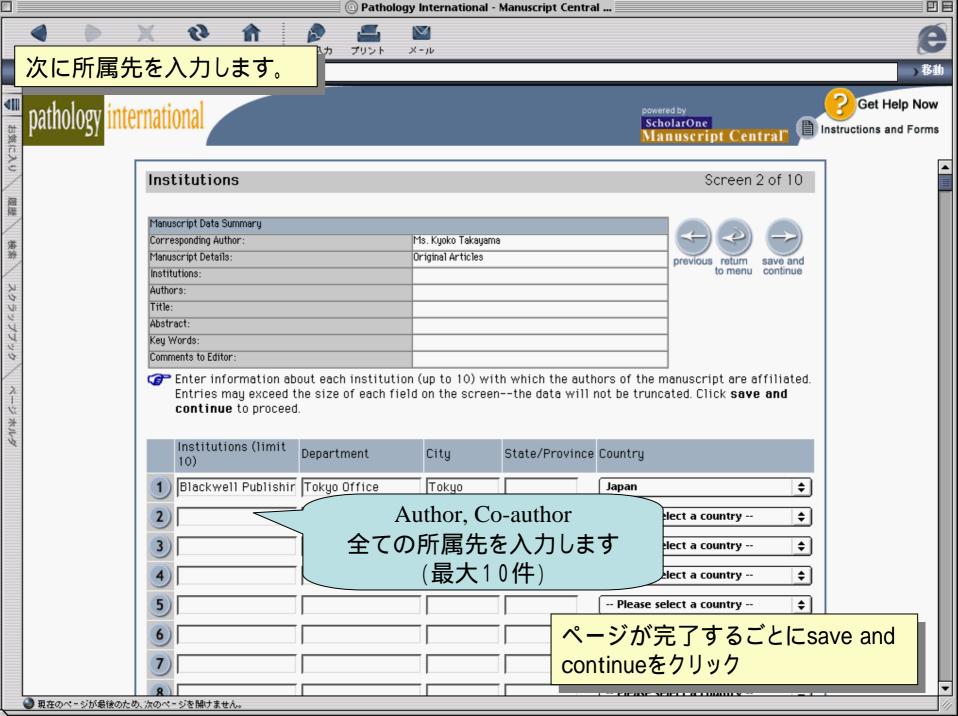
### 電子投稿・査読システムの導入

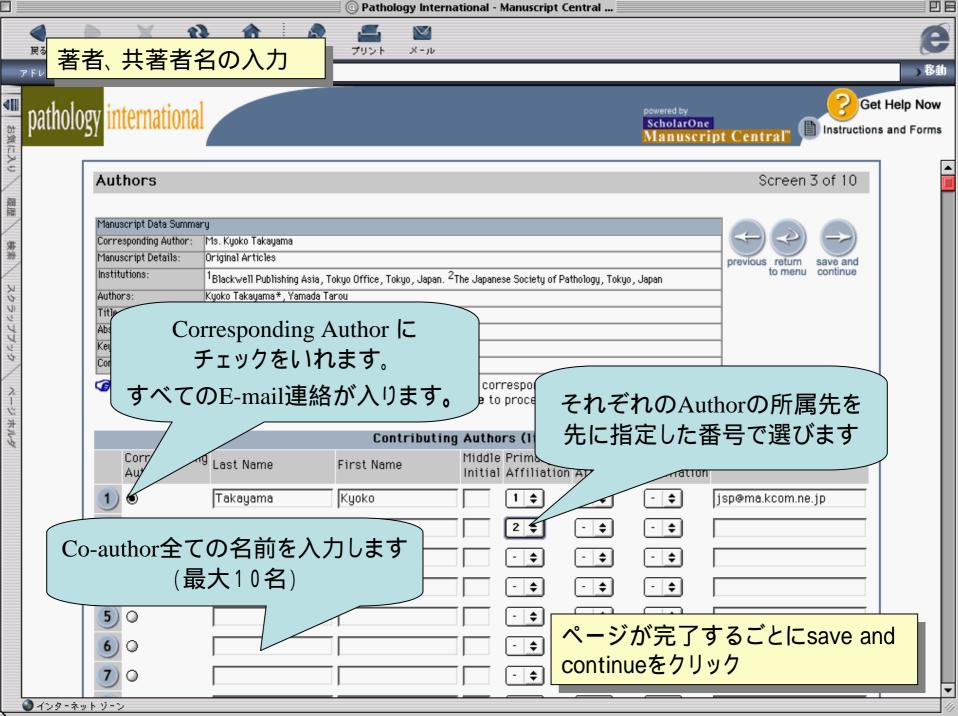
- ScholarOneなどの世界標準のシステムを 導入する
- 1. カスタマイズするのに時間·労力·お金がかかる上に,日本 人スタッフがいない。
- 2. カスタマイズも含めてすべてのシステムを丸投げすると極めて出費がかさむ。
- JSTAGE2のシステムを導入する
- 1. システム開発が遅れている。カスタマイズして使い始めるまでさらに時間がかかる。
- 2. 国家予算を使っているので,学協会の経済的負担は少ない。 い。











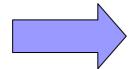
## SPARC/JAPANへの参画

#### 「海外発信の現状と計画」

- 冊子体販売は長〈海外出版社に委託してきたが、購読料の高騰による「キャンセル」が相次ぎ、本年を持って委託契約満了となるため、その後に契約延長を行わなかった。
- ZSは、ジャーナルのインパクトファクターにかかわらず基礎 生物学的に重要であり生物の多様性に注目した論文を大事 にするヨ - ロッパにおいて、特に人気が高い。
- 利便性が高く手ごろな価格で利用できるような電子ジャーナルを海外販売することによって、それらのかつての購読者を再び獲得し、さらに新たな購読者層も獲得したいという意図がある。

## SPARC/JAPANへの参画

- 1996年以降,海外大手出版社による「日本の学協会」に 対する,販売および編集も含めた業務委託勧誘
- 科研費補助金で出版経費の多くを賄っている本会の状況を考えると、海外大手出版社に出版を委託することには大きな躊躇があった。
  - 1. 国からの補助金を海外の会社に支払うということになる
  - 2. 基礎的学術成果の発表を海外の出版に依存することの是非
  - 3. 学会誌は、本来「学会」のものであるという認識
- 学術成果の交流は、研究者と所属する学会及び図書館によってのみ成立するものであり、本会のような脆弱な経済基盤の学会は会誌の継続した刊行に必要とされる経費の捻出のために、会誌の適正販売価格を設定し、その価格交渉を直接図書館と行うべきであると考えた。



### 経費回収モデルの現状と計画

- 現状では、冊子体印刷経費の多くを文部科学省の刊行助成補助金に依存しているが、今後は「冊子体」を印刷し続けるための経費を「電子媒体販売」により獲得する、という図式を想定しなければならない。
- ■「冊子体」発行には多額の経費がかさむが、生物系学協会にとっては最後まで冊子体を発行する必要性はなくならないであろうと予想している。それは、冊子体における写真そのものが、論文の重要な要素であるという理由からである。
- 今後は、J-STAGE上で無料公開している電子ジャ・ナルに適切な価格設定を行い、冊子体販売から電子ジャ・ナル販売へと主体の移行が予測される,近い将来の世界情勢の変化に備えておきたい。

#### パッケージ販売ーUniBioPress

- 生物学分野の学術誌はZSを含め電子媒体での「1タイトル」販売には不向きである。生物学は、一言では片づけられないほど細分化した分野を持っており、我が国ではそのため小さな学会がいくつもの学術誌を刊行している。
- この雑誌をパッケ ジにすることにより「生物学」としてのまとまりが生まれるだけでなく、それぞれがお互いを補いあって、「生物多様性」をセールスポイントとして売り込めるようになる、という利点も生ずる。
- 現在、日本哺乳類学会の Mammal Studyと哺乳動物 卵子学会の Journal of Mammalian Ova Researchと のパッケ ジ販売をモデルとして開始。